

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201561		
法人名	有限会社 ナイスケア		
事業所名	ナイスケア グループホーム白岳 2F カトレア		
所在地	長崎県佐世保市白岳町604		
自己評価作成日	令和 3年9月29日	評価結果市町村受理日	令和4年2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	-----------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和 3年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節がわかるようにその時季の旬の物を取り入れて食べて頂いている。梅干しや漬物など作って提供したりしています。転倒予防の為、毎日足こぎ運動や立位運動を行っている。コロナウイルス感染予防の為、夏祭り・敬老会・年忘れ会などは、施設内の各ユニットごとに行っている。合同レクリエーションも毎月各ユニットごとに行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、介護理念に「楽しく生きる、入居者も家族も、職員も」を掲げている。季節毎の行事は新型コロナ禍の中であっても、入居者が笑顔になるよう職員全員で趣向を凝らし、楽しいひと時を過ごすことができるように工夫を行っており、理念が職員に浸透していることが窺える。現在、運営推進会議は書面会議にて対応しており、委員からは毎回さまざまな意見や質問が上がっている。事業所は、委員からの意見や質問への回答を記載した議事録を委員や家族へ送付しており、運営推進会議に対する真摯な取組は、高く評価できる。また身体拘束について、センサーマット使用の是非について丁寧に検討している他、看取り支援に積極的に取り組み、反省会では施設長を交え意見を出し合っている等、常に入居者の立場に立った支援を実践している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所の運営理念は全職員が理解し、日々の業務に取り入れて取り組んでいる。	介護理念に「楽しく生きる 入居者も家族も職員も」を掲げている。理念に込めた思いは、施設長が職員へ説明しており、今年度の研修では、介護観についてグループワークを行っている。日頃からさまざまなイベントを企画し、入居者の生活が楽しくなるよう、理念の具現化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染予防の為、地域との行事や事務所内での行事は各ユニットごとに行っている。	母体法人の夏祭りに地域住民や子どもたちが大勢訪れていたり、町内でウォーキングのイベントを実施しており、現在は新型コロナ禍により交流を休止している。入居者と職員と一緒に草取りを行っていた町内の清掃は、現在は職員のみで参加し行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事務所が実践を通じて、積み上げた支援方法を地域の人々に向けて少しずつ活かすことが出来ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防の為2カ月おきに書面にして報告したり、家族からの意見を聞いてサービス向上に活かしている。	現在新型コロナ禍のため、書面会議にて開催している。入居者の状況や行事の報告を書面で送付し、意見を募っている。集まったさまざまな意見や質問をまとめ、再度委員や家族へ送付している。会議のメンバーが事業所の運営について積極的に意見や質問を寄せていることがわかる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ほとんど市町村と連絡をとっていないため、今後は連絡を取って行くよう努めていく。	以前は、行政から講師を招いて研修会を開催したり、各種申請や手続きに関する相談に出向いている。新型コロナ禍における研修は、オンラインが主であり、相談や確認は電話を使うことが多くなっている。行政主催のコロナ対策のオンライン研修会にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会や研修を通じて、身体的拘束をしないよう声掛けや言葉かけを行い取り組んでいる。	虐待の芽チェックリストを活用し、分析、振り返りを行い、議事録は職員が常に閲覧可能な状態になっている。また、体動センサー等の使用は、2週間に1度再検討し、スピーチロックに関しては、内部研修の実施やその場にいた職員間で注意し合う等して、虐待防止に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が利用者コミュニケーションを取り、観察することで防ぐことが出来ている。委員会や研修など、学んだことも活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族から相談を受けたらアドバイス出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、説明を行い十分な理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等より、意見や要望があった場合は、管理者を含め職員が話し合いを行い改善するように心掛けている。	切手を貼った封筒の設置、運営推進会議への家族や入居者の参加等、意見が出しやすい環境づくりに努めている。新型コロナ禍で面会禁止の時期もあったが、市中感染者数減少に伴い、アクリル仕切り板や換気扇を設置した面会スペースを確保すると共にオンラインでの面会など家族からの強い要望をサービス向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のユニット会議やグループホーム全体会議を行い意見や提案を出せるようにしている。	毎月開催するユニット会議や普段の会話の中から、管理者は職員の意見や要望を汲み取っている。施設長は、全体会議や個人面談も活用し、職場環境改善に努め、5日連休やバースデイ休暇の実施に至っている。シフトや業務内容など、職員の意見を反映し取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務年数や資格、労働時間など、各自働きやすいように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や外部研修も積極的に参加するように心掛けている。コロナウイルス感染予防の為、リモートでの研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2カ月に1回ブロックごとに研修に参加しており、話などをして交流することが出来ていた。コロナウイルス感染予防の為、リモートでの研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の話を聞き、時間をかけて希望を把握するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の気持ちを聞きながら関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と一緒にサービス内容を相談し、管理者とアドバイスを行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることは支援しながら見守りを行い、共に支え合いながら関係を築いていくよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方へ日常生活の状態を伝え、行事の参加や病院受診に同行し関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と一緒に外出支援や面会時間を作って関係を継続するよう努めていたが、コロナウイルス感染予防の為、外出出来ないが、少しでも面会出来るように努めている。	新型コロナ禍のため、家族・知人の面会に制限があるものの、オンライン活用や面会ブース等、対面での関係継続に取り組んでいる。また、家族と入居者の関係が途切れないよう、電話や手紙の他、入居者の欲しい物品を家族へ伝え、家族のプレゼントとするなどの工夫がある。外出は、感染予防対策を講じ、ドライブしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志交流の場所を提供し、一緒に参加してもらい支援するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後、出来るだけ連絡をとるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望など把握するよう出来るだけ傾聴会話を行い、希望にそえるように努めている。	職員は、入居者の思いに寄り添いながら、思いや意向の把握に努め、リビングや居室での過ごし方やペースなどに反映している。得た情報は、申し送りや個別記録に記入し、職員間で情報共有している。家族の協力を得ながら、本人本位の暮らし方を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の資料や本人・家族から聞き取りを行い、本人が過ごしやすい環境をつくれるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来るだけ本人が過ごしやすいよう考え、観察し把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が毎月モニタリングをし、3か月ごとにカンファレンスを行い、計画を作成している。6か月で再アセスメントをとるようにしている。	計画作成時に、管理者が家族に要望を聞き取り、基本情報に記載している。完成した介護計画は、本人・家族に説明し同意を得て、実践している。実践した内容は、「支援経過の記録」に記し、月末に管理者が入居者毎の書類一式のチェックを行っている。計画から実践、見直しのPDCAサイクルが機能していることが確認できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人のファイルを作り、日中・夜間の記録を記入し、申し送りをし、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の体調や状況を見て、気分転換に外出を行っていたが、コロナウイルス感染予防をふまえ、屋上へ行ったり、合同レクリエーションに参加するよう促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染予防の為、地域との協力支援出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回定期往診と状態の変化があった時は、昼夜問わず情報を提供して対応できるようにしている。	複数の協力医療機関による月2回の往診があり、入居者の体調が急変した際には、いつでも連絡が取れる体制を整備している。内科以外の受診は、原則家族となっているが、新型コロナ禍の現在は事業所が行っている。また、月4回、看護ステーションの訪問があり、連絡ノートにて職員と看護師との情報の共有を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内の看護師に相談し、協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との情報交換は常に行っている。また、見舞いや食事介助へ行き、病院との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からご家族や主治医とも話をしながら、方針を共有して取り組んでいる。	看取り支援は、一昨年4例、昨年5例と積極的に取り組んでいる。重度化した場合と看取りについて、入居開始時に家族へ説明し、看取りに入った時点で「指針」の説明を行い、看取りのケアプランを立てている。職員は、研修でエンゼルケアについて学び、看取り後には施設長を交え振り返りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡網を作成し、話し合いの場を作っている。定期的に訓練を行い発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	火災報知器、スプリンクラーやAEDを設置し、消防署の協力を得て避難訓練を行っている。	新型コロナ禍で、以前定期的に行っていた消防署立会いの訓練は実施していないものの、各ユニットで昼夜を想定した訓練を行っている。備品は、協力企業から提供された米・水・缶詰の他、パッドやオムツは各サイズ準備し、利用者の顔写真や緊急連絡先ファイルも整備している。ただし、持ち出し書類等の取扱いが確立していない。	現在、顔写真、緊急連絡先、健康情報等と複数にまとめている避難時の持ち出しファイルについて、誰がどのように持ち出すか等、災害時の実効性を高めるため検討、取組に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の気持ちになり、声掛けしプライバシーの確保に努めている。	入居者の個人ファイルは所定の場所に保管している他、ポータブルトイレ等はカーテンや布で目隠し、オムツ類は、全て収納して部外者にはわからないよう配慮している。写真使用の同意及び職員の守秘義務の誓約は文書化しており、守秘義務に関しては、全体会議で再確認する機会を設けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から声掛けやコミュニケーションをとり、希望ややりたいことなどを聞くように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調に合わせて、無理のない範囲で支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月ごとに美容室よりカットに来てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	喜んで食べてもらえるように旬のもの、味や見た目をいろいろ考え提供している。	法人管理栄養士が献立を作成しており、入居者の咀嚼に合わせ盛付けている。新米で塩むすびを作り、豚汁、焼き芋など旬を楽しみながら気分転換を図っている。各ユニットでたこ焼き会など食を楽しむ行事や誕生会等、入居者と一緒に食を楽しむ機会を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの健康状態をみて、食べやすい状態で提供している。水分量は表に記入し水分補給を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けをしている。一人でできない方は介助し口腔ケアを行っている。義歯は毎日消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、一人ひとりの排泄のパターンを把握し声掛けを行い、自立支援に努めている。	事業所では、トイレで座位による排泄の支援に取り組んでいる。入居者の希望や体調に応じ、ポータブルトイレも利用している。排泄状況は排泄チェック表に記録し、ケア会議で個別の排泄支援を検討する際に活用している。これまでに布パンツを使用するよう改善策を検討し、取り組んだ事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	声掛けしながら水分を取っていただいたり、野菜を使った副菜を出来るだけ取り入れ提供したり、排便状況に応じて下剤を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけご本人様の希望に合わせて入浴して頂いている。体調に合わせてシャワー浴を利用したりしてリラックスできるようにしている。	週2回を目安に入浴支援を行っている。入浴拒否時は、声掛けの時間を変えたり会話の内容を変えている。入居者の体調や希望を汲みながら、浴槽に浸かったり、シャワー浴で対応するなど入浴支援を行っている。職員は、入居者の入浴が寛げる時間になるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の状況に合わせてソファで休息したり、季節に応じてエアコンや湯たんぽを使い良く眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りや処方箋で薬の用法などを確認している。また、間違いがないように日付、名前、何食後かの声掛けをし、服用した事を最後まで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや行事などに参加して頂き、一人ひとりの状況に合わせて出来る事は手伝って頂くようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染が拡大している為、外出支援は行えていないが、今後コロナウイルス感染状況をみながら外出できるよう支援していきたい。	新型コロナウイルス感染拡大以前は、町内のウォーキングイベント等地域行事に参加したり、周辺の散歩やドライブで外出支援を楽しむ機会を多く設定している。現在は、感染予防対策を講じながら、ドライブや敷地内での外気浴など策を講じ、閉塞的にならないように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方がお金には関心がない様子で、買い物に行って使うことは出来ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が不穏にならないように声掛けし、電話をかけたりし支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ廊下や玄関など危険物を置いたり使用しないように配慮し、心地よく過ごせるように工夫している。	リビングや廊下のソファでは、入居者が思い思いの場所でゆっくりと過ごしている。新型コロナウイルス感染防止のため、これまで日に2回の換気を4回に増やし、空気洗浄機を導入している。室内の温度や湿度を一日2回記録し、職員の体感にのみ頼らず、入居者が快適に過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同志を同じテーブルに座ってもらい、楽しく過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みなどを家族と相談しながら、本人が安心して過ごせるように工夫している。	事業所での暮らしに馴染めるよう、持ち込みは自由である。職員は、居室に思い出写真や色紙を飾ったり、家族からの便りをファイルに纏める等、居室で寛げるよう支援している。入居者の希望で壁に姿見を設置するなど、入居者の個性を重視した居室づくりがわかる。職員による掃除、換気も行き届き、清潔で居心地のよい居室である	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る人は自立の生活を送ってもらっているが、出来ない人は見守り、介助を行い出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201561		
法人名	有限会社 ナイスケア		
事業所名	ナイスケア グループホーム白岳 3Fかすみ草		
所在地	長崎県佐世保市白岳町604		
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 3 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	-----------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 3年 11 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

清掃や調理などの業務以外の、利用者と職員と一緒に過ごす時間を多くとり、より深く関わることでお互いの信頼関係を築けるように心がけている。トップダウンの指示ではなく、現場の職員間での意見を尊重し、話し合いで意思決定を行っている。また食事に関しては、専属の栄養士、調理師が栄養バランスが取れた食事を提供しており、利用者にも好評です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を玄関入り口に掲示し、全職員が理念を共有し、実践に向けて取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染状況を鑑み、地域との交流は控えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の方にも施設の支援内容や取り組みについて情報発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染状況を鑑み、書面での会議を開催し関係者各位に周知している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所関係各所に問い合わせや、地域包括支援センターとも連絡を取り合い情報を共有している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員を設置し一ヶ月に一回会議を開き、議事録を回覧し会議内容を周知している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修を事業所内で開き、業務に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者が一名おり、必要時に連絡を取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書、重要事項説明書の内容を説明し、事務職員から利用料に関する説明もしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見要望での聞き取り、また意見箱を設置し誰でも意見要望が出せるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム全体会議、各ユニット会議で意見を出し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金、昇給、資格手当、また5連休取得の義務付け等で働きやすい職場環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々なテーマの内部研修を行い、知識や経験を積めるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ブロック会議(書面)で情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から困っている事を聞き出し、その人に合った生活環境を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人、家族から要望を聞き、安心して暮らしてもらえるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム以外にも、その人に合ったサービスがないか模索する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者も職員も同じ目線で生活ができ家族のような関係を築けるような支援を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の生活状況、健康状態を報告し、ご家族が現状把握できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は制限があるので、電話で本人と直接お話をするなど関係が絶たれないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションで利用者同士の親交を深める。気が合う人同士席を近くにしたりして、一人だけ浮いた状態にはしていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後は手紙のやりとり、また初盆の際にはご自宅に出向き挨拶をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を本人、家族に聞き心の中の声も汲み取れるように検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にはインテーク時、入居後も普段の生活の中で、新しい情報が引き出せるようにアンテナを張っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定だけではなく、その日その日で表情、声の張り、歩行状態など細かいところの変化に気づけるように観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族に現状を伝えたくて、ケアプランに活かせる情報はないか探る。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、申し送り帳で確認。また普段の業務内の中で情報共有するため、職員同士で申し送りの確認作業をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設しているデイサービス、有料老人ホームと密に連携を取り、事業所全体で支援に取り組んでいる。医療連携体制加算を算定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染状況を鑑み、地域資源との協働は、書面での情報共有に留まっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の訴え、病状の変化があった時は速やかにかかりつけ医に報告。指示を仰ぎ処置を行い、必要時は受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が月に4回訪問し、状態把握、情報管理を行っている。併設施設の看護師との連絡体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の情報を速やかに提供し、入院中には連絡を密に取り状態把握に努める。退院前には今後の支援方法を話し合う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、主治医、施設で話し合いの場を持ち、重度化、終末期の話し合いをしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、心肺停止時の対応、嘔吐時の対応の研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	火災時の避難訓練、災害時の避難訓練を行っており、報告書を消防に提出。消防設備の点検も業者に依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格を把握し、人格を損なわないように丁寧な言葉かけを心がける。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本にの希望に沿った支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意見主張に耳を傾け、可能な限り希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は本人と一緒に着たい服を選んでいいる。希望があればお化粧もする。出張ヘアカットも利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞き誕生日など行事の日に食べてもらう。簡単な調理や皿洗い、トレー拭きなど出来る事をしてもらっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量を記録。水分量が少ない方には、ジュースやアイスなどで代替して摂ってもらう。嚥下状態に合わせてトロミや介護食などの食事形態をとっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアが上手くできない利用者には支援している。義歯の方は毎晩消毒液に付けて清潔を保っている。必要に応じて歯科往診をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の適度な運動、消化に良い食物の提供、水分補給などで便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週2回の入浴。希望があれば2回以上可。体調を見て清拭足浴に切り替えることもある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力の低下で長時間座位保持が難しい方は午睡を行うなど、一人一人の状態を把握し休息を取ってもらう。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法用量、内服目的を把握し、症状が変化した時は主治医に報告し、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分が得意な事、若い時の特技などできる範囲で取り組んでもらい、張りのある生活を送れるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染状況を鑑み、近所の散歩、屋上へ行き気分転換を図るなどの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	生活必需品や本人が欲しい物がある時は、希望を聞いて預り金の中から購入できる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に家族に現況報告を電話または書面でお知らせしており、家族との電話も希望する時にできる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や飾り、懐かしい音楽などで心地よい空間を演出している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな時に自室で過ごせるようにしている。またソファを設置しており、一人でゆっくりしたい時などに利用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使っていた家具類や小物は可能な限り自由に持ち込めるようにしており、心地よく過ごせる空間作りを心がけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室バリアフリー。各所に手すり設置。障害物の排除など自立した生活を送れるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201561		
法人名	有限会社ナイスケア		
事業所名	(有)ナイスケア グループホーム白岳(4階すみれ)		
所在地	長崎県佐世保市白岳町604番地		
自己評価作成日	令和 3年9月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	-----------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和 3年 11月 17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特色ある行事の支援を企画・実行しており、月に1~2回は必ず何らかの行事を行い、「楽しく生きる」ことを目標としている。食事に力を入れ、行事食や週1回程度の刺身提供等、行う。また、健康管理や医療面で安心して暮らせるよう、協力医療機関・訪問看護ステーションとの連携に力を入れている。コロナウイルス感染予防の為、面会を制限しているものの、全く面会出来ないのではなく状況に応じた対応を行っている。感染予防の知識や、その他の知識習得の為、内部・外部の研修を充実させている。介護理念である「楽しく生きる。利用者も、家族も、そして職員も。」を軸とし、笑顔を引き出すような支援を行い、共に笑い、支えあっていけるような施設である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念の「楽しく生きる」を目標に、個人が出来る事を促し、やりがいにつなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。書面での運営推進会議では、民生委員の意見が聞けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、事業所の事を知ってもらう為感染予防や食事の事について文書でお知らせしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、書面での運営推進会議を実施。会議内で出た意見をまとめ、必ず目を通しサービス向上の為活かすようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活福祉課や長寿社会課などへ、不明な事や疑問点等は、電話したり出向いて相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ナイスケア全事業所で身体拘束防止委員会に取り組んでいる。議事録は職員に回覧し、情報を共有している。また、利用者の状態により、センサーを使用する際には、家族に必要な理由ばかりではなく、不要となる状態やそのための取り組みも併せて説明している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	日常生活の中で、様子観察や状態の変化を見落とさないようスタッフ全員で話し合っている。また、身体拘束防止委員会の中で、虐待防止について話し合いを行い、普段から虐待の小さな芽をつむよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会で学ぶ。実際、社会福祉協議会で制度を利用している入居者もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に自宅を訪問したり、施設へ来所してもらい、本人・家族へ説明を行い、納得してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見を出しやすいよう、玄関に切手を貼った封筒を設置し、施設長に直接届く仕組みがあり、会議にて指導・注意がある。これまでに、職員の名前がわかるようにしてほしいという家族からの要望があり、名前を縫いこんだ制服を採用している。年に3~4回、ホーム便りを発送。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議で意見を出している。また、それ以外に全体会議があり、施設長を交えて意見を出し合い、施設内のサービス向上を目指している。5日連休・バースデー休暇がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金の導入や、リフレッシュ休暇の配慮。また、職員各々に話しかけ、個人の能力に合わせ、取り組む仕事を任せるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、研修内容と研修日の記載した表を作成し、参加出来ない職員へは、興味のある研修は受けるよう勧め、研修を提示している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会へ加入。令和2年・3年はブロック長を務めている。コロナウイルス感染予防の為、文書での開催とし、意見をまとめて各グループホームへ配付している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴する姿勢・受け止める努力を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と話し合い、本人・家族の要望を聞き、スタッフ間で情報を共有している。また、その事をケアプランへ活かすようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅が可能である方、そうでない方に関しても、グループホーム以外にも様々な介護保険のサービスがあると話している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事は見守り支援しながら、生活する者同士という意識を持っていただくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルス感染予防の為、家族が行事に参加する事は控えているが、電話や手紙・メール等で、報告。受診時には同行してもらおう事もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染予防の為、度々面会の制限がある。家族の要望で顔を見ながらパソコンで話しをしたり、はがきのやり取りや写真入りの便りを送っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者同士は近くの席に配慮している。また、スタッフも間に入り、入居者同士のコミュニケーションを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、手紙や電話等やりとりを行うこともある。初盆の時には、お線香を送ったり手を合わせに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1対1で介護する事(入浴等)も多く、何気ない会話から本人の話を取り取る。情報は職員間で共有し、わからない事は家族に尋ねている。意思疎通が困難な場合は、仕草や表情から汲み取る他、長く支援している利用者は、これまでの経験や蓄積した情報を基に支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やケアマネジャーからの情報以外に、本人からも直接話を聞き、把握するよう努めている。また、自宅のベッドや家具の位置等も参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前、普段の1日の生活の過ごし方を聞き取り、スタッフ間での情報を共有している(入居情報)。1人1人違った生活スタイルを把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本、長期6ヶ月・短期3ヶ月の介護計画を作成。毎月のユニット会議の中で話し合いを行い、モニタリングを実施。家族へは、面会や電話で要望を聞き、本人の現状に即した介護計画を作成している。記録は、ケアプランと連動するよう記載する。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス内容に対して取り組んでいるか、日誌・個人記録へ記入している。更に、1ヶ月ごとにまとめた支援経過も記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービス・有料老人ホームの看護師と連携をとり、入居者の急変時には連絡体制が出来ている(日中)。また、医療体制を強化する為、訪問看護ステーションと契約している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染予防の為、大体的な行事は縮小している。地域の結びつきや、協働体制を大切にしている為、地域の清掃活動には後から参加する等している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望される医療機関をかかりつけ医とし、受診の支援を行っている。主治医への状態報告や指示受けを確実にし、医療機関との関係作りに努めている。また、敷地内に隣接・併設する施設の看護師に連絡・相談出来る環境にある。他、急変時や夜間帯等は協力医に連絡し、迅速に急変時の対応をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する施設の看護師に入居者の健康管理について必要な助言や指導を受け、介護職と看護職の連携に努めている。また、医師会の訪問看護と契約しており、月に4回訪問。健康管理に配慮している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院のソーシャルワーカーや看護師と情報交換を行い、入居者について適切な対応について話し合う機会を持つようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアの対応をしている。重度化した場合の指針を、利用開始時に家族へ説明し、同意を得ている。看取りの段階に応じ、主治医・家族・管理者をまじえ話し合いをし、議事録を作成し職員への周知徹底に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の緊急連絡網や緊急マニュアルを作成している。研修を受け、窒息・心肺停止時の対応等、訓練を受けている。また、嘔吐時の手順等、内部研修で実践し取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	防災設備の点検を、定期的に業者に依頼している。火災報知器、スプリンクラー、AEDを設置し、避難訓練・消防訓練を行っている。緊急連絡先や顔写真付きのファイルを準備しており、すぐに持ち出せるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を苗字にさん付けで呼び、目線を合わせる。丁寧で優しい口調で話す等、努めている。個人ファイルは目隠しのカーテンを施し、部外者に見えないよう配慮している。居室にあるポータブルトイレは、使用しない時は布をかける。オムツ類は全てクローゼット内に収納し見えないよう配慮し、1人1人を尊重しプライバシーを確保するよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が遠慮することなく、希望や思いが言えるようにコミュニケーションの構築に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に合わせて行事やレクリエーションに参加する。また、残存機能を活かし無理のない範囲でストレッチ体操や、機能訓練等を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類が汚れていないか、ボタン等が取れていたり破れ、ほころびがないか気を付け、そういう時は着衣交換や補修を行っている。また、普段から好きな色や物を知り、その人の希望を踏まえた上で、髪をカットする場合等意思を大事にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が考えた献立に沿って、各ユニットで調理している。状態に合わせてソフト食(ミキサー食)や刻み食を提供。食欲のない利用者には、高カロリー飲料やゼリーを提供することもある。トレー拭き・台拭き等、その方の状態に合わせて出来ることをしてもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食記録。水分摂取量は、飲水量が少ない人には記録をし、好きな飲み物等を提供し、飲んでもらう。また、1人1人の嚥下機能に合わせて、食事形態を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケアを促している。義歯の入居者は、義歯を洗浄しうがいを促し、口腔内の清潔に努めている。必要であれば、すぐに歯科往診を受ける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄状況をチェック表で確認しトイレ誘導を行っている。リハビリパンツ使用が布パンツになり、改善出来た事例がある。夜間ポータブルトイレを使用している場合は、使用後その都度洗浄し、清潔に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品や、乾物等を使用し、排便を促す。また、ストレッチ体操やリハビリ等、適度な運動に努めている。入浴やトイレ時に、腹部マッサージをする事もある。排便チェック表を実施。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上、午前と午後に利用者の希望の時間に入浴を支援している。入浴に応じない入居者には、無理強いせず清拭や足浴を行う事もある。また、羞恥心が強い入居者には、同性での介助を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	廊下の端やリビング等に、中間的にソファを設置し、安心してくつろげる場所を確保している。また、表情や疲労感をみながら臥床して頂くよう努める。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時呼名確認を行い、確実に内服するよう努めている。応じない場合は、時間を置いて言葉掛けしたり、散剤にしてトロミを付けたジュース等に混ぜ、内服してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後のトレイ拭きや、洗濯物たたみ等、日常生活の中でお手伝いをしている。また、簡単な調理の手伝いやお茶パック詰めなど、出来る人に声掛け促し、感謝の言葉をかけやりがいいに繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は、外出・外食支援等行っていたが、現在はコロナウイルス感染予防の為、隣接の有料老人ホームまで気分転換に行ったり、外の空気を吸い景色を見て楽しんでもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ある程度金銭管理が出来る方に関しては、少額であるが所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	常識範囲内での時間を決め、その時間内であれば、電話出来るよう対応している。手紙(はがき)をスタッフと一緒に読むなど、手紙のやり取りの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	十分に換気を行い、大きな窓のリビング・カウンター付きのキッチンから、調理の音や匂いを感じる事が出来る。また、季節の飾りつけを行う等、工夫している。空気清浄機を設置し、臭気改善に役立っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々にソファを設置し、自分のペースで過ごしてもらおう。また、自室でゆっくり過ごす事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みのある家具や物品を置いたり、クッション・ぬいぐるみ・写真等、本人の思い出の物や馴染みの品を置いて、居心地よく過ごせるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリー設計で手すりも多く、段差はほぼない。少しでも、自立した生活が送れるよう支援している。		